

平成25年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492200272	事業の開始年月日	平成21年10月1日	
		指定年月日	平成21年10月1日	
法人名	株式会社ニチイ学館			
事業所名	ニチイケアセンター藤沢			
所在地	(251-0003) 神奈川県藤沢市柄沢580-7			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年8月14日	評価結果 市町村受理日	平成25年11月1日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigo/w10/wpJDetails.as>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは閑静な住宅街に立っており、空き地が多かった所にも少しずつお店や保育園などの建物が建ち始めております。ホームとご近隣の方々との関係も少しずつ築かせていただけるようになってきており、これからも地域の一員としてホームとして出来る事を発信し続けていければと思っております。ホーム内でも色々な事にチャレンジしていく事を忘れずお客様と共に楽しいホームとなるように職員一同支援しております

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成25年9月10日	評価機関 評価決定日	平成25年10月29日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】
この事業所はJR藤沢駅北口からバスで10分、バス停から徒歩10分ほどの住宅街にある。建物は鉄骨2階建てで、1階に1ユニット、2階に1ユニットのグループホームである。屋内はバリアフリーでエレベーターが設置されている。隣にはレストラン、近くにはスーパー銭湯があり、週に3回新鮮な野菜の店が出るので利用者とい物に出ている。

【地域交流】
柄沢町内会に加入し、地域の清掃には管理者が参加し挨拶を交わしている。神社の例大祭に出かけたり、柄沢ふれあい子供祭りに参加している。老人会の方々に「認知症について」講演する機会があり、その後事業所のお茶会に招待するようになった。また、老人会会長、副会長が運営推進会議のメンバーになっている。事業所の夏祭りやニチイ祭りには地域にピラを配布し地域の方を招待している。

【医療連携と終末期の対応】
協力医療機関の医師が月2回往診に来ている。訪問看護師が週1回訪れ健康管理を行っている。利用者の急変時など緊急の時は24時間相談できるようになっている。契約時に「重度化した場合における対応に係る指針」を家族に説明し家族の同意を得ている。重度化した場合は関係者と繰り返し話し合い、意向と状態に合わせ看取りが行われている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ニチケアセンター藤沢
ユニット名	湘南の里

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を作成し、各ユニットに掲示している。お客様、ご家族様、職員、近隣の方が笑顔になる為に私達が出来る事をしようと言う意味になっている。	理念「みんなの笑顔のために」は、職員で話し合い作成した。利用者も職員も笑顔で暮らせるケアを実践している。利用者が毛筆で大きく書いた理念を各ユニットに掲示している。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りやニチイ祭りには近隣の方々にも参加して頂いている。地域のお祭りにも少数ではあるが参加している。地域の老人会の人を招いてお茶会を開催している。	町内会に加入し、柄沢ふれあい子供祭りなど地域行事に利用者と職員が参加している。事業所の夏祭りやニチイ祭りに近隣の方が来ている。習字、音楽のボランティアが来ている。地域の音楽サークルに通う方もいる。認知症についての講演をきっかけに老人会と交流が深まっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	会社独自のお祭り（ニチイ祭り）があり、その場にて事業所としての役割を考え、高齢者疑似体験などを近隣の方々になんげずつ発信している、また老人会において認知症について説明を行なった。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2月に1回運営推進会議を開催しそこで出た意見、要望をケアに生かし、ホームが良いサービスを提供出来るようにしている。	2か月に1度、利用者、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、老人会役員、事業所職員をメンバーとして開催している。会議では事業や行事の報告、質疑応答、意見や情報の交換をしている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	2ヶ月に1回のGH連絡会の場にて市の介護保険課との意見交換が出来ている。村岡地区福祉連絡会に出席し地域の福祉関係者とも連絡を取り合っている。	藤沢市介護保険課に運営推進会議録を提出している。「市グループホーム連絡会」「村岡地区福祉関係者ネットワーク」に参加し、その中で市職員と連携している。市の介護相談員が来ている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は夜間以外施錠はしていない。ユニットの入り口になるドアも施錠はしていない。各居室のドアも御本人様が施錠しない限り、職員側が施錠する事はない。</p>	<p>緊急やむを得ない場合以外には身体拘束をしない方針を明記し、これまでにやむを得ない身体拘束の事例もない。玄関および各ユニットの出入り口は施錠されていない。年1回、身体拘束について研修をしている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>何が身体拘束に当たるのか年に1度、高齢者虐待防止法の研修の中で全職員に周知を行なっている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年度より年間研修計画を立て、月に1度職員の研修を実施している。その中で触れていく予定である。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族様、御本人様に分かるまで十分に説明を行い同意して頂いてから契約を行なっている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・家族会を設けそこで意見を聞いている。またホームの受付に意見箱を設置し無記名で意見を投票できるようにしている。</p>	<p>運営推進会議や年2回開催の家族会で要望を聞いたり、意見交換をしている。家族の来訪時にも随時お話ししている。玄関に意見箱を設置しているが意見は寄せられていない。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議・職員研修の場を設けており、職員から意見や要望を聞いている。	職員は、日々の「何でもノート（連絡帳）」への記録や毎月のユニット会議、職員研修で意見を出している。職員の提案で週1回「レクデイ」を決めレクレーションを充実させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や希望に合わせた勤務時間になるように入社時だけでなく随時話し合いの場を持ち決めている。スキルアップした職員についてもそれに応じた給与アップになっている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内だけでなく、社外から来る研修の案内を随時職員に周知している。社内にも於いても研修を月に1度行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内同士での交換研修をおこなっている。また、法人内の施設見学を行い職員に交流の機会を設けるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、ホーム長、CMやスタッフ間での連携を図り本人に対して安心感が得られるように声を聞き、行動に移している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ホーム長やCMとご家族と話し合いをし要望に沿ったサービスや関係作りに努めている。特に家族が不安に思うことは理解し納得できるまで説明し、家族会等も行なっている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ホーム長、CMを含め蜜に連絡を取り合い、担当者会議等で話し合いご本人様の生活が安全・快適に過ごされるよう必要とされている支援を見極め対応している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員、他の利用者含め家族的な雰囲気作りに努めている、洗濯、食事作り片付けなど、自発的に参加して頂けるよう環境を整え、役割を持って生活出来る様に心掛けている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所されるご家族にはご本人の生活の様子をお伝えし、互いに情報交換を行なって支援方法を模索している。また居室に思い出の写真を飾るなどして家族との絆を大切にしている。		
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	ホーム内の行事に家族・友人知人を招待し交流が出来る様に支援している。又、地域の行事にも参加して孤立しない様に努めている。また近親者や友人もいつでも来所できるようにしている。	知人、親戚の方の訪問時にはお茶を出し、リビングや居室でくつろげるように支援している。入居前から利用している理美容室に家族対応で出かけている。手紙や年賀状、電話の取次ぎなどの支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器拭きや新聞折り等でお互いが協力出来る環境を作っている。また仲の良い利用者の席を近くにする等工夫している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	人間関係を大切にして、ホームに来所際には、相談や支援に努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族や利用者様との談話の中から希望・意向などを汲み取り把握に努めて、連絡ノート等を活用しスタッフで情報共有出来る様に努めている。	利用者との日々の会話の中や家族を通して意向を把握している。本人からの確認が困難な場合には、表情や仕草から判断している。職員は気づいたことを「何でもノート」に書き情報を共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族との会話からこれまでの暮らしについても聞き出し、好きな食べ物を提供する等して利用者の好みの生活が出来る様に工夫している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の特記事項の欄に生活の様子を記入しスタッフ全員が現状や変化の把握に努めており、必要があれば連絡ノート等を使い職員で情報を共有している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議・家族会を設けそこで意見を聞いている。また月に1回は、担当者会議を行い、必要性のある時は医師や訪看、マッサージ師等にも依頼し意見を参考に介護計画を作成している。	介護計画は家族、訪問看護師、医師、マッサージ師などの意見を聞いて担当者会議で話し合い作成している。介護計画の見直しは6か月ごとを原則とし、必要に応じて随時見直している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個別記録のチェックを実施し必要に応じ連絡ノートにて情報共有に努め、介護計画の期限に関係なく見直しの必要がある場合は担当者会議を開いている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	前例に関係なくその都度、状況を判断しながらお客様に最良のサービスが提供できるように常に新しいことに取り組むように努力している。遠足や外食会、夏祭り等新たな行事も増えてきている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事のお祭りや近隣の老人会での催しは、内容を確認し参加可能な催しについては積極的に参加して頂いている。子供祭りやかるた会、映画鑑賞会等に参加している。		
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を確認しながら希望に添った医療体制をとり支援している。提携医の診療を希望されないご家族は昔からの掛かりつけの医者に掛かることができる様にしている。	入居前からのかかりつけ医に継続して受診している方もいる。希望に合わせ、入居後は往診医をかかりつけ医に変更した方もいる。必要に応じて、訪問歯科医に治療を受けることができる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>午前・午後と1日2回バイタルチェックを実施し、体調の変化に早期発見、早期対応に勤めています。又週1回訪問看護にてアドバイスを受け適切な支援に努めている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時はこれまでの経緯を報告し必要な資料を医療機関に提供している。又お見舞いにて状態を把握し、退院に向けての話し合いを行い、退院時は医療機関からの情報を確認している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の段階になってきたら往診医、御家族様、ホーム側等と話し合いを何度も行い、御本人様やご家族様の何を望んでいるのか聞く場を設け、希望に添った支援が出来るようにしている。</p>	<p>契約時に「重度化した場合における対応にかかる指針」を説明し、同意を得ている。終末期には家族、医師、管理者、職員で話し合い、希望と状態によっては看取りを行っている。</p>	<p>これまでの職員研修では「急変時における対応」を実施しています。看取りの事例があり、今後の看取りの可能性を踏まえ「看取りに関する」職員研修を期待します。</p>
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>任意ではあるが、普通救命講習は全職員受講してもらうようにしている。応急手当の方法に関しても提携しているクリニックに講習をして頂いていた。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>近隣の方にも参加を促しながら年に2回消防隊の方を含めた避難訓練や消火訓練を実施し、状況に合わせた避難が出来るように訓練している。</p>	<p>消防署職員の立ち合いで年2回避難訓練をしている。夜間の火災を想定した訓練を5月に実施したときに、老人会の方が参加、協力してくれた。飲料水と非常食、米など3日分を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活習慣を十分に把握し、一人一人に適切な声掛けや対応をしている。又、トイレ誘導時には利用者が恥ずかしくなる様な言葉は控えている。	職員は居室担当制で、各利用者の入居前からの生活習慣などを把握し、一人一人を尊重した対応をしている。毎年4月に接遇の職員研修を実施している。不適切な対応があればその都度リーダーが助言している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフが常に皆様の動きを確認しながら行動し声掛けをこまめに行い、会話の中から利用者の希望を伺い、それを実現出来る様にしている。食べたい物を伺いそれを提供するようになっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりとコミュニケーションを取り食器拭き等して頂いたり、お昼寝して頂いたり、その人のペースを大切に支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、口腔ケア、髪などできる事はやって頂き出来ない所はお手伝いしている。2,3枚洋服をお出ししお好きな物を選んで頂き季節に合った洋服を着て頂いている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に栽培した野菜の一部を提供している。利用者が自発的に係れるように環境作りをしている。数名の方が自分の仕事と捉えて食器洗い、食器拭きに参加なさっている。	食材は事業所で注文して配達してもらっている。足りない時は利用者と同じ物に出ている。菜園で取れたミニトマトやねぎを食材として利用している。職員は食事介助に専念しており、利用者と一緒に食事をとれていない。	利用者と同じ食卓を囲み、一緒に同じ食事を楽しめる環境づくりを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事が進まない方や一度に摂取できない方には時間を分けて少しずつ提供したり、好物を提供したりしている。例えば紅茶が好きな利用者にはなるべく紅茶を提供する等工夫をしている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔内の清潔を保つ為、一人一人の口腔内を把握し、毎食後利用者の力に応じその人にあったケアを行なうようにしている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>自らの意思（タイミング）でトイレに行けるように時間ごとに声掛けを行なっている。またソワソワしている時等、さりげなくトイレに誘導するようにしている。</p>	<p>排泄チェック表を記入して個々のパターンを把握し、声掛けしてトイレでの自立排泄を支援している。トイレでの自立排泄ができパットの使用枚数が減少した方がいる。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分を多めに摂取して頂いたり、その都度状況に合わせた服薬でコントロールしている。また適度な運動をして頂いたりして便秘予防を行なっている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>基本何時でも入浴は可能にしている。季節ごとの入浴（ゆず湯や菖蒲湯）を楽しんで頂いたり、入浴剤を用いたり、気分転換を心掛け、個々に応じた入浴をしている。</p>	<p>入浴は、毎日午後の時間帯に実施している。希望があれば夜間も20時までは対応している。入浴した方がいるが無理強いをせず、家族に声をかけてもらったり、夜間に清拭をしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>居室の温度調節、寝具を整えるなど利用者と会話しながら適切に支援している。体調を見てドクターの指示に従い、日中もお昼寝して頂く等、利用者に合わせた対応をしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬ファイルの先頭のページに薬の説明表を入れている。服薬の変更等も連絡ノート等で情報を共有出来る様にしている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>一人ひとりの生活に応じた手伝い（食器洗い・拭き、洗濯干し・たたみ）等をして頂き又、歌を唄ったり七夕、クリスマス飾りを作り皆で楽しんで頂いている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>現状は希望する日に毎回外出は出来ないが、なるべく直ぐに外出出来るようにしている。またホームの行事として外食や遠足等、外の空気に触れるイベントは毎月行なっている。</p>	<p>散歩には週2~3回出かけている。外出行事では車で遠出したり、近くのレストランで外食している。利用者は職員と一緒に買い物に出かけ、自分の好きなお菓子や本などを購入している。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>外出で買い物をされる際には担当職員がお金を持参し、欲しい物を買って頂いている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所にて電話をしたい時に出来る様にしている。また子機を部屋に持っていき、ご家族と電話して頂いている。手紙やはがき等も利用者が自由やりとり出来る様にしている。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音、光、温度については感じ方に個人差があるが、なるべく満足して頂けるように希望をよく聞きその都度対応している。リビング廊下等は季節感出るよう飾り付けしている。	リビングや廊下には行事の写真や利用者が書いた習字を掲示しており、和める環境になっている。玄関や庭に花壇と菜園があり、季節の花や野菜を育てている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	状況に応じて席替えを行い、お茶を飲みながら楽しく会話をして頂けるように配慮している。またテレビの前には一人分の椅子を用意している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除・換気はもちろん安全性・利便性を考慮する。利用者の好む動物のポスターを貼ったり家族写真を置いて居心地の良い部屋作りをしている。	防災カーテンやエアコン、照明器具、キャビネットなどは設置されている。ベッドやタンス、テレビ、時計など、好みの調度品を置いている。誕生会や家族の写真を飾っている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは男女が分かる様にし、文字も大きく表示しており、各自が判断し行ける様にしている。		

事業所名	ニチケアセンター藤沢
ユニット名	富士の里

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>事業所の理念を作成し、各ユニットに掲示している。お客様、ご家族様、職員、近隣の方が笑顔になる為に私達が出来た事をしようと言う意味になっている。</p>		
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>夏祭りやニチイ祭りには近隣の方々にも参加して頂いている。地域のお祭りにも少数ではあるが参加している。地域の老人会の人を招いてお茶会を開催している。</p>		
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>会社独自のお祭り（ニチイ祭り）があり、その場にて事業所としての役割を考え、高齢者疑似体験などを近隣の方々に少しずつ発信している、また老人会の人に認知症について説明を行なった。</p>		
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2月に1回運営推進会議を開催しそこで出た意見、要望をケアに生かし、ホームが良いサービスを提供出来るようにしている。</p>		
5	4	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>2ヶ月に1回のGH連絡会の場にて市の介護保険課との意見交換が出来ている。村岡地区福祉連絡会に出席し地域の福祉関係者とも連絡を取り合っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関は夜間以外施錠はしていない。ユニットの入り口になるドアも日中施錠はしていない。各居室のドアも御本人様が施錠しない限り、職員側が施錠する事はない。</p>		
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>何が身体拘束に当たるのか年に1度、高齢者虐待防止法の研修の中で全職員に周知を行っている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>今年度より年間研修計画を立て、月に1度職員の研修を実施している。その中で触れていく予定である。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>ご家族様、御本人様に分かるまで十分に説明を行い同意して頂いてから契約を行なっている</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>運営推進会議・家族会を設けそこで意見を聞いている。またホームの受付に意見箱を設置し無記名で意見を投票できるようにしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回ユニット会議・職員研修の場を設けており、職員から意見や要望を聞いている		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力や希望に合わせた勤務時間になるように入社時だけでなく随時話し合いの場を持ち決めている。スキルアップした職員についてもそれに応じた給与アップになっている		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内だけでなく、社外から来る研修の案内を随時職員に周知している。社内に於いても研修を月に1度行なっている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内同士での交換研修をおこなっている。また、法人内の施設見学を行い職員に交流の機会を設けるようにしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所よりご本人が慣れるまでは時間を掛けてゆっくりと要望や訴えに対して耳を傾け関係づくりに努めている。又それらの情報は他のスタッフに伝達し同じケアで対応出来る様にしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>特に家族が不安に思うことは理解し納得できるまで説明し、さらに要望等に耳を傾けている。また家族会等を行い普段の疑問や不安を聞けるようにしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>出来るだけ会話の中で、どのような支援を望まれているかを探し出し利用者さんやそのご家族の希望をかなえられるように努めている。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>日常生活（洗濯たみ・食器拭き）を共に送り家庭的な雰囲気を作ることにより信頼関係を築くように努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族へはイベントや外食などの参加を呼びかけ、利用者との関わりを持ってもらうように働きかけている。また部屋に家族の写真を飾るなどして家族との絆を大切にしている。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人との日常会話からその人の気に入っている人や場所、趣味を聞きその情報を支援に生かし、連絡ノート等使用しスタッフで情報を共有している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器拭きや新聞折り等でお互いが協力出来る環境を作っている。また仲の良い利用者の席を近くに作る等工夫している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて情報連絡するように努めており、来所の際には相談等にのるようにしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	出来る限りご本人の思いや意向を受け止め一人一人が生き生きと暮らせるように努めている。お昼寝したい方にはそのように支援し、食べたい物、飲みたいものを提供できるように支援している。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の会話の中から今までの暮らし方や生活環境を聞きだしたり、ご家族から情報を集め、サービスに取り入れるようにしている。就寝時間や起床時間も利用者個々に合わせるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活の行動をスタッフが把握して、楽しく過ごす事が出来る様に一人ひとりの生活リズムに合わせて支援している。お昼寝が必要な方にはお昼寝出来る様にしえんしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>本人がより良く暮らすため、医師や訪問看護、アメンティサービス等関係者が連携し現状に即した介護計画の作成に努めている。</p>		
27		<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>必要に応じ連絡ノートにて情報共有に努め、介護計画の期限に関係なく見直しの必要がある場合は担当者会議を開いている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>前例に関係なくその都度、状況を判断しながらお客様に最良のサービスが提供できるように常に新しいことに取り組むように努力している。遠足や外食会、夏祭り等新たな行事も増えてきている。</p>		
29		<p>地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事には積極的に参加し、地域のお祭りに参加する等、豊かな生活が送れる様に支援している。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ご家族の受診に対する意向を確認しながら希望に添った医療体制をとり主治医との連携を図りながら支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	午前・午後と1日2回バイタルチェックを実施し、体調の変化に早期発見、早期対応に勤めています。又週1回訪問看護にてアドバイスを受け適切な支援に努めている		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	入院時はこれまでの経緯を報告し必要な資料を医療機関に提供しています。又退院時は医療機関からの情報を確認したりお見舞いにて状態を把握しながら退院に向けての話し合いを行なっている。		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	終末期の段階になってきたら往診医、御家族様、ホーム側等と話し合いを何度も行なっていき、御本人様やご家族様の何を望んでいるのか聞く場を設け、希望に添った支援が出来るようにしている		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	任意ではあるが、普通救命講習は全職員受講してもらうようにしている。応急手当の方法についても提携しているクリニックに講習をして頂いていた。		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	近隣の方にも参加を促しながら年に2回消防隊の方を含めた避難訓練や消火訓練を実施し、状況に合わせた避難が出来るように訓練している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、なおかつプライバシーについても注意を払いながら、目上のお客様としての対応に心掛けて、トイレの誘導の仕方など気をつけるようにしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が散歩を希望された場合は時間を作って、散歩するようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にやりたい事を日常生活のリズムから探し出し、出来るだけその方の意向に合わせるよう心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日髭を剃ったり、髪留めをしたり、行事の際には口紅をしたりおしゃれが出来る様にしえんしている。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その人の好みに合わせて食事が出来る様に食事も配慮していて、食器拭きなど職員と一緒にできる事は、利用者にして頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事は一人ひとりの状態に合わせて、キザミ食・ミキサー食・おかゆ等工夫をして提供していて、水分量を記録しながらしっかり水分補給して頂いている。</p>		
42		<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後、自立を支援しながら一人ひとりの状態に合わせた口腔ケアを行い、口の中に食べカスが残らない対応している。又訪問歯科との連携に努めている。</p>		
43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>トイレの定時誘導以外にも利用者がそわそわしたり、落ち着きがない時はトイレ誘導したりしている。</p>		
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>水分摂取を心掛け、便秘時には消化のよい物を提供している。また普段から食物繊維を摂取するように心掛けている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>何時でも入浴は可能にしている。季節ごとの入浴（ゆず湯や菖蒲湯）などの提供や入浴剤の素などを入れての入浴など楽しめる入浴を提供するようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>その人の生活リズムに合わせてお昼寝をして頂いたり、体調を考慮しお昼寝して頂いたりしている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬の効用一覧を作っており、誰がいつどんな薬を飲んでいるか分かる様にしてあり、新しく薬が処方された際には連絡ノートにて情報共有をおこなっている。</p>		
48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>食器拭き、洗濯たたみ等、本人の体調や気分に合わせて、気分転換した頂いている。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>お散歩を出来るだけ取り入れて、近所でも天気の良い日には声を掛け出掛けるようにしている、また外食会等も月に1回は実施し外の空気に触れられるようにしている</p>		
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>散歩の際にはお小遣いを持参し、利用者が欲しい物があれば買うことが出来る様にしていく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望にあわせて、電話を掛けたいときは電話出来る様に支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が快適に過ごせるように共有スペースでは整頓を心掛け季節ごとの飾り付けや小物などを置き四季の変化を楽しんでいけるように工夫している		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い通りに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が仲良く過ごす事が出来る様にリビングの席を工夫したり気の合う利用者同士で楽しく過ごせるように工夫している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれのお部屋は思い出の写真を飾ったり、好みの写真を飾ったり、なじみの家具を持ってきて頂いたりしている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に生活が送れるように通路を広くしたり、トイレの文字を大きくし分かりやすくするなど工夫している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

ニ4177センター 藤沢

作成日

H25年11月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	33	今後の看取りの可能性を踏まえ「看取りに関する」職員研修が出来ていない。	「看取りに関する」職員研修を行う	年に1回は「看取りに関する」職員研修を行う。	H27年 3月31日 <small>まで</small> (※年度1回)
2	40	職員は食事介助に専念しており利用者と一緒に食事をしていない。	利用者と同じ食卓を囲み一緒に同じ食卓を楽しむ。	毎月決められた日に職員と利用者が同じ食卓を楽しむ日を設ける。	H26年 3月31日 <small>まで</small> 実施。
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。